

ベストパートナーとして

アクサ生命保険(株)
山形支社長
東 孝一氏



1月1日付でアクサ生命保険(株)山形支社長に赴任いたしました。常日頃より私どもの担当職員をご支援頂き感謝申し上げます。誌面をお借りし、自己紹介を兼ねて、あらためて当社の歴史等について紹介させていただきます。

アクサ生命保険(株)は、フランス発祥の世界最大級の保険グループのアクサが日本に設立したアクサ生命と、日本団体生命保険が2000(平成12)年3月に統合し誕生いたしました。商工会議所との関わりは日本団体生命保険の発祥に由来しており、同保険は1934(昭和9)年に日経連の前身である全国産業団体連合会と商工会議所が推進母体となって発足しました。

初代会長は日本商工会議所・東京商工会議所会頭の郷誠之助氏で、郷氏は日本鋼管、王子製紙の社長、東京株式取引所(現・東京証券取引所)理事長として大正年間から昭和初期にかけて日本財界の大立者(リーダー)でした。東京・丸の内の日

本興業倶楽部内に本社を置き、全国各地の商工会議所に支店を構えました。

「安い掛金、高い保障」が特色で、全国各地の商工業者やその家族、従業員の生活保障のための福祉制度として大きく発展。太平洋戦争後は独占禁止法ができて、一般の保険会社にも団体保険が開放されましたが、団体生命保険のパイオニアであり、商工会議所の共済制度を通じて実績を挙げて参りました。

昭和42年には生命共済制度、45年には特定退職金共済制度を発足。さらに、平成8年には共済制度の一層の普及・推進を図るため、商工会議所と強い協力関係を築く「ベストウイズクラブ」を設立。アクサ生命との統合を経て、今日に至っております。おかげさまで平成27年9月1日現在、全国の95%を超える491会議所が会員となる大きな組織に発展しています。

私は1987(昭和62)年、日本団体生命保険に入社しました。東京・渋谷の本社で研修を受けた後、宇都宮市、長野県伊那市、三重県四日市、宮崎市、前任地の福岡市、そしてこの度の山形市と、各都市を中心とするエリアの商工会議所の共済担当ひと筋に歩んでまいりました。

これまでの勤務地それぞれに思い出はありますが、伊那の5年間は商工会議所青年部主催の事業に参加し、身内のように接していただきました。地域の人々と一緒に生きることが、企業福祉・地域貢献という本来業務の原点であることを実感した次第です。

会員の皆様に強調したいことがあります。歴史的に見て、アクサ生命保険の全契約保有数に占める東北の割合は大きく、山形県は全国一の福島県に次ぐ規模であるということです。従って東北こそが営業活動の本丸と位置付けられています。そのことは取りも直さず、私たちの大きな使命の一つであります会議所の福利厚生事業への支援の充実につながります。

私は鹿児島県薩摩川内(さつませんだい)市の離島、東シナ海の甌島(こしきじま)に、キビナゴ漁を営む漁師の家に生まれました。広い空、真っ青な海と、山形とは風景を異にしておりますが、白銀の雄大な山々を目にし、決意を新たにしている次第です。今後とも担当職員共々ご指導・ご支援頂きますよう宜しくお願いします。

(ひがし・たかかず氏、山形商工会議所議員)